

# 令和6年度 長野県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

学びの改革支援課

## 1 受検者数 ( )内は前年度比較

- ・ 受検者総数 9,505 人(−386 人)
- ・ 全日制 9,263 人(−396 人)、定時制 142 人(+2人)、多部制 100 人(+8人)

## 2 教科別結果

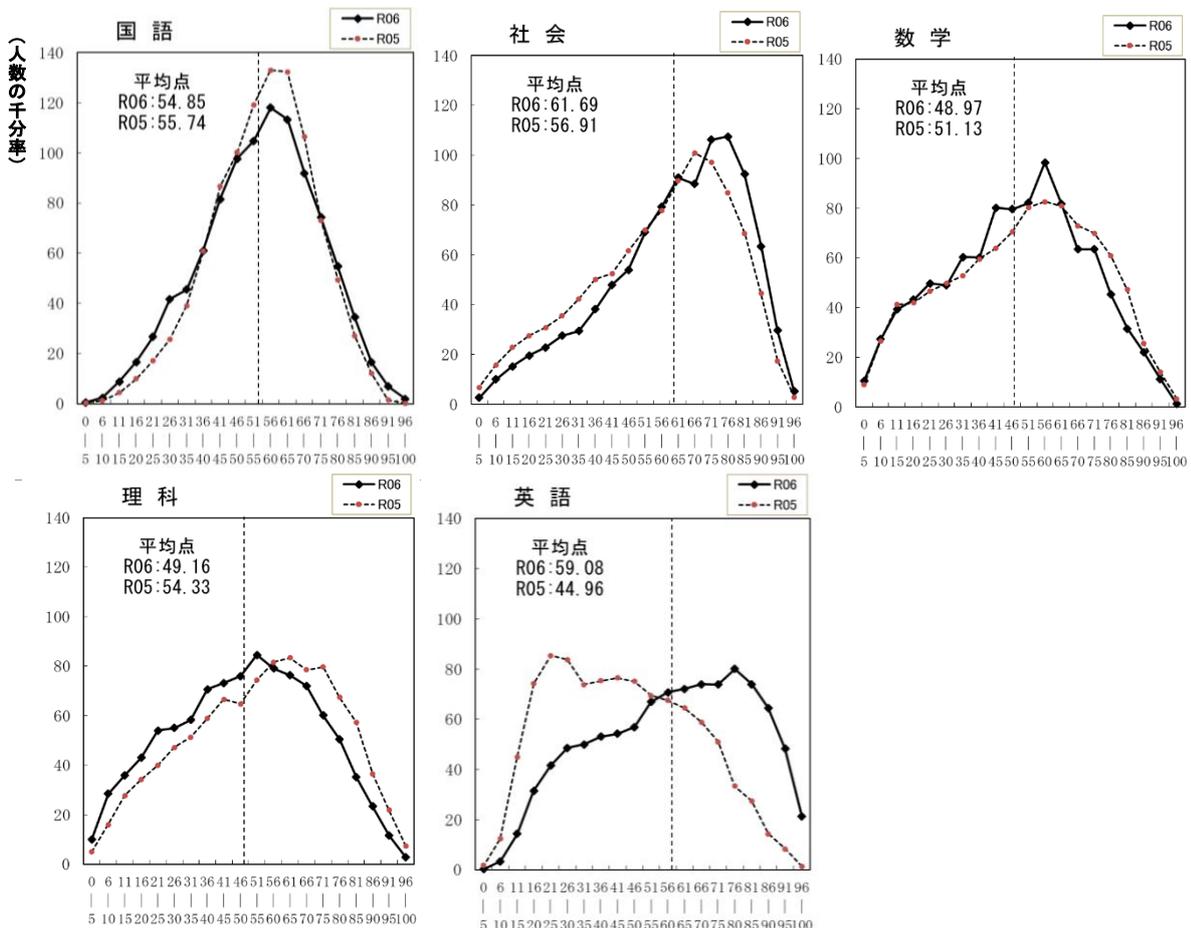
( )内は前年度数値と増減

	国語	社会	数学	理科	英語
平均点	54.9 (55.7, −0.9)	61.7 (56.9, +4.8)	49.0 (51.1, −2.2)	49.2 (54.3, −5.2)	59.1 (45.0, +14.1)
100点の人数	5 (0)	7 (1)	1 (7)	2 (23)	27 (2)
0点の人数	0 (0)	3 (9)	16 (5)	13 (4)	1 (1)
標準偏差*1	17.2 (15.2)	20.6 (21.5)	21.4 (22.4)	21.8 (22.0)	22.6 (20.9)
変動係数*2	0.31 (0.27)	0.33 (0.38)	0.44 (0.44)	0.44 (0.41)	0.38 (0.46)

\*1:数値の分布の散らばり具合(ばらつき)を表すもの。標準偏差が大きいと、平均値のまわりの数値の分布の散らばりが大きい。

\*2:平均値に対して標準偏差がどの程度の比率になるかを示すために、標準偏差を平均値で割ったもの。平均値が異なっても散らばり具合を比較できるように補正した値。格差が拡大すると変動係数が上昇し、格差が縮まると変動係数は下降する。

## 3 教科別得点分布グラフ(グラフ中の縦の点線はR6年度の平均点)



#### 4 分析と考察

作問にあたっては、設問毎の予想正答率を算出したり、教科にとらわれず担当者間で協議を深めたりしながら検討を行ってきた。知識及び技能と思考力、判断力、表現力等を問う問題をバランスよく出題したことで、概ねバランスのとれた出題であったと考える。

英語で平均点が高くなった一つの理由としては、授業において互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動が重視されるようになったことで、自分の考えを簡単な語句や文を用いて書くことができる受検者が増えたことが考えられる。

#### 5 学力検査問題に対する外部評価者・中学校からのご意見

〔成果〕

- ・知識及び技能と思考力、判断力、表現力等を問う問題がバランスよく構成されており、読解力や情報を整理する力が求められた良問が多かった。
- ・多くの設問に文脈が設定されていることで、探究的に学ぶことを重視するメッセージが込められている問題に工夫されている。

〔課題〕

- ・読みの速度には個人差があるため、問題作成にあたって文字数について検討してほしい。

#### 6 今後の対応について

- ・育成を目指す資質・能力を適切に評価できる問題となるよう、問題数、文字数等のバランスに一層配慮しながら、引き続き工夫する。